

緊急消防援助隊の派遣

～平成28年熊本地震に伴う活動～

巻頭特集①

■ 熊本地震発生に伴い緊急消防援助隊を派遣

平成28年熊本地震の発生に伴い、緊急消防援助隊京都府大隊を編成し、航空小隊及び陸上隊を熊本県へ派遣しました。派遣先では、他府県の緊急消防援助隊等と連携し、人命検索活動等を実施しました。



阿蘇山の状況（京都市消防航空隊撮影）



航空小隊の集結地（熊本空港）



第1次派遣隊の出発式（H28.4.16）
（京都市消防活動総合センター）



陸上隊の宿营地（山鹿市消防本部）

【被災地における活動】
人命検索活動
（熊本市内・南阿蘇村）
被害状況の把握
情報収集活動



熊本市内における人命検索活動



派遣隊の引継式（H28.4.18）
（第1次→第2次）



阿蘇山南斜面における人命検索活動



【京都府大隊の解団式】
小谷サービスエリアにおいて京都府大隊の解団式を行いました。その後、京都市の部隊は、京都市消防活動総合センターに帰隊し、緊急消防援助隊の活動を終了しました。（H28.4.22）

■ 派遣状況

航空小隊	平成28年4月16日（土）～4月17日（日）まで（2日間）延べ1機4名派遣	
陸上隊	平成28年4月16日（土）～4月22日（金）まで（7日間）延べ46隊126名派遣	
	第1次派遣	4月16日～4月19日（4日間）16隊50名
	第2次派遣	4月18日～4月22日（5日間）15隊43名
	第3次派遣	4月21日～4月22日（2日間）15隊33名

新消防指令センター・ 高度救急救護車の運用開始

巻頭特集②

新消防指令センター

119番通報の受付から、災害場所の決定、出動部隊の編成と出動指令、災害現場活動の支援等を一体的に行うなど、消防活動の中核を担う「新消防指令システム」の整備が完了し、災害多発時や大規模災害時等への対応を強化した「新消防指令センター」の運用を、平成27年6月に開始しました。



■ 情報収集機能及び情報共有の強化



現場からは、タブレットで撮影した映像を「現場指揮本部」や「消防指令センター」へ配信



消防指令センターからは、現場活動で必要となる地図、航空写真、危険物等の保有情報、高所カメラやヘリテレビ映像などを、リアルタイムに現場指揮本部等へ配信



指令台



指令作戦室



新消防指令センター

- ・ 消防指令センターの前面に110インチの大型マルチスクリーンを5面配置
- ・ 指令台(119番の受信台)を7台から9台に増設
- ・ 指令台のモニター数を2画面から4画面に拡充
- ・ 大規模災害時に情報を集約し、作戦を樹立する「指令作戦室」を、消防指令センターの中で一体的に運用

高度救急救護車

局地的に多数の傷病者が発生した場合に、応急救護拠点を迅速に開設し、現場に出動した医師が車両内で医療処置や適切なトリアージを行うことができる「高度救急救護車」の運用を、平成27年6月に開始しました。



- ・ 全長 11,990 mm
- ・ 全高 3,740 mm
- ・ 両端拡幅時の全幅/面積 約 5,750 mm/約 33 m²
- ・ 左端拡幅時の全幅/面積 約 4,240 mm/約 20 m²
- ・ 右端拡幅時の全幅/面積 約 3,990 mm/約 20 m²



- ・ ベッド 6 床
- ・ 无影灯 2 器
(簡易手術可能)
- ・ 除細動器
- ・ 生体情報モニター

■ 運用と機能

集団救急救助事故のほか、現場最高指揮者の要請等で出動します。車両は、現場の状況に合わせて両側又は片側のいずれにも拡幅の機能があり、多数の重傷者のプライバシーを保護しながら、安全で清潔な空間において医療・救護活動を行うことができます。

消防体制の強化

水災害への対応強化

水災害対応訓練施設の整備

平成25年の台風18号による嵐山中之島一带等での冠水に伴い、多くの住民が取り残された事案や、近年多発する大規模な水災害を受け、平成27年9月に消防活動総合センターにおいて「水災害対応訓練施設」を整備しました。平成28年6月には、自主防災組織を対象とした訓練を開始しています。



施設を活用した特別救助訓練

■ 水災害対応訓練施設の概要

移動可能な地上設置型水槽で、水没車両、降雨体験ノズル、浸水体験用ドア及び階段を設置し、消防職員、消防団員及び市民の方、それぞれに求められる水災害への対応訓練や体験を行うことができます。
※ 施設サイズ：長さ10m、幅5m、高さ1.2m、運用水深1m、重量8t



浸水時のドアの開放訓練



降雨体験

- ・ 水没車両からの救出訓練
- ・ 救助ボート及び救命ボートを使用した救出訓練
- ・ 降雨体験
- ・ 浸水時における土のう積みなどの水防工法訓練
- ・ 流水時（階段）における歩行訓練・体験
- ・ 浸水時におけるドアの開放訓練・体験



水防工法訓練



流水歩行訓練（階段）

都市型水害対策車の運用

道路冠水や地下浸水等の都市型水害発生時における大量排水のほか、大規模火災発生時における長距離送水を行うなど、大容量送排水ポンプを搭載した「都市型水害対策車」の運用を、平成28年4月に開始しました。

この車両には、水災害発生時等において、土のう等の水防資器材や障害物の排除等に使用する小型重機（多目的ローダー）を搬送するための物資搬送コンテナが配備されています。



バケット使用時

多目的ローダー

コンテナ内に積載



多目的ローダーは

- ・ バケット
- ・ 土のう製造
- ・ バックホー
- ・ クレーン

として使用可能



災害状況に合わせて2種類のコンテナを選択

- ①物資搬送コンテナ（土のう約280個搬送可能）
- ②送排水コンテナ（ホース、水中ポンプ積載）

1時間当たり約270tの排水性能を有しています。

水災害への取組

消防団の充実強化 ～平成27年度の取組～

巻頭特集④



京都市消防団総合査閲消防訓練 (H27.5.31)

● 京都市消防団総合査閲で実放水を披露

大規模な地震災害の対応を強化するため、平成27年5月に開催された京都市消防団総合査閲の消防訓練において、初めて実放水訓練を実施しました。各行政区における代表の11の消防分団が標的を射抜く見事な放水を披露しました。

● 消防団防災ハイスクール

消防団員が地元の高等学校において、生徒を対象に消防団活動の説明や放水訓練指導等を行うことで、消防団活動に理解を深めてもらうとともに、消防団への入団促進を図る取組です。平成27年度は、16校で3,399名の生徒が受講しました。



消防団防災ハイスクール



京都市学生消防団活動認証状の交付式 (H27.5.28)

● 京都市学生消防団活動認証制度

大学等に通学しながら消防団活動に取り組み、地域社会に貢献した大学生等に対して、その功績を認証し、就職活動等を支援することを目的に認証制度を開始しました。

平成27年度は、10名が認証されました。

■ 第2期消防団充実強化実行チームの活動

消防団充実強化実行チームとは、市内の消防団員の中から74名が集まり、交流や意見交換を行うことで、様々な情報やアイデアを今後の消防団活動に反映させ、消防団全体の活性化を図ることを目的として結成されています。

平成27年度も前年度に引き続き、広報・交流・教育の各チームに分かれ活動を実施しました。

■ 主な取組

- ・第2回京都市消防団フェスタの開催
- ・消防団員募集リーフレットの作成 (2万5千部)
- ・フェイスブック「おこしやす消防団」の運用
- ・名刺テンプレートの制作
- ・消防訓練 (小型動力ポンプ操法) 及び応急手当の動画制作
- ・出前教養 (身近なものを活用した応急手当) の実施



消防団員募集リーフレットの作成



京都市消防団フェスタの開催 (H27.11.29)